

『ギヴァー』続報

「特別寄稿」

書物のループル

郡山市 みどり書房桑野店 東野徳明

『ギヴァー』刊行を知るや、「絶版を惜しんでいました。新訳版、よくぞ出してくれました!」というお電話を下さった魂の書店人、東野さんに、なぜ本書を、売りたいがうているかを語っていただきました。



ゆえに、

なにを売るうとしているかに書店員のレベルは如実にあらわれるし、なにを買ってゆかに読者のレベルが完璧にあらわれる。



2

1 東野さん@海外文学棚。古典からベストセラーまで、その品揃えはまさにループル! 2 『ギヴァー』には手書きポップが、「この本を読んだ後でこの本を超える作品に出会ったら それはものすごい幸運です。」3 入荷したての『ギヴァー』。入ってすぐのフェア台に平積み。その横には、東野さんが雑誌『ダ・ヴィンチ』2月号で紹介したオススメ10冊を集めたフェアが展開中。小社刊・須原一秀氏の名作『高学歴男性における弱腰矯正読本』(東野さん評:「タイトルからは想像もつかない比類ない書物」)も入ってます!

どんなジャンルであつても、趣味が高じて鑑識眼が磨かれれば、どんなにお金がかかるようになる。当然ながら、より良い物はより高い。その点書物は例外的であつて、歴史的な名作であつても、掃いて捨てるような凡作であつても、価格設定の基準はおなじようなものだ。世界的水準の作品であるから、『1Q84』は1500万円で売りに出される、などということはない。書物は活字となつて複製可能な形式になつてはじめて完成する。



3

書店に並んでいる書物はすべて真物なのであつて、マウリツツハイス美術館に行つて、「真珠の耳飾の少女」の原画を見ないうちはフェルメールを見たことにはならない、という言い方はあり得ても、生原稿で読まなければ『こころ』を読んだことにならない、とは言われない。

性能や水準によつて価格が左右されないから、書店員は人類の宝であるような書物であれ、ゴミのような書物であれ自由に置くことができる。買う方もそうだ。ダイヤモンドや金やチタンやアルミやゴムが、おなじ価格設定で並んでいる中から、自由に選ぶことができる。書店は書物のループルなのだ。それもお手頃価格で売るループル。その上「モナリザ」を何枚も持つてる、そんなループル。

食材とかクルマとかオーディオと同様、書物にも高級なものほど高い値が付くとすれば、先頃新評論から復刊された『ギヴァー』などは、目の玉が飛び出るような値段が付くはずである。将来はYA「ヤングアダルト」文学の古典としてのステータスが与えられるべき作品であつて、今『ギヴァー』を読むことは、まだ世に出て間もない、みずみずしい『星の王子さま』や『赤毛のアン』や『銀河鉄道の夜』を読むようなものだ。さあ読もう!

と言いたい。この作品を売りたいがすることによつて、ぼくの書店員としてのレベルを如実にあらわしてみろぞ、という所存である。

ギヴァー 記憶を注ぐ者

L・ロリーノ/島津やよい訳
近未来SFの名作、待望の新訳!
四六上製 二五六頁 一五七五円

小谷真理氏(日経)絶賛!
ISBN978-4-7948-0826-4

